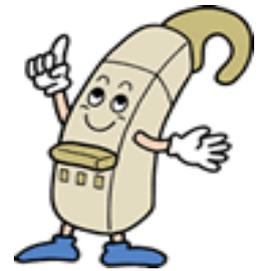


もしもに備えて・・・

今から11年前の3月11日は、宮城県沖を震源とした東北地方太平洋沖地震による災害、およびこれに伴う福島第一原子力発電所事故に拠る災害が発生した日です。1万8千人以上の死者・行方不明者が発生しました。また、震災に遭った地域の人たちは、多くの交通機関が遮断されたことで帰宅困難者が起きました。津波により家が流された人たちのために避難所が設置され、今なお、仮設住宅で生活している人もいます。私たちが住んでいる鹿児島でもいつ災害が起きるかわかりません。もしもに備えて日頃から準備しておきたいものです。

避難する時の持ちもの ～『NHK 災害時 障害者のためのサイト』より～

- 補聴器や人工内耳などの電池
- スマートフォンなど文字情報が得られる携帯端末
- バッテリーや充電器（予備も）
- 筆談用具（ホワイトボード、メモ用紙、筆記用具など）
- 助けを呼ぶための笛、ブザーなど
- 懐中電灯（暗い場所でも手話や文字が見えるように）
- 支援を受ける際に配慮してほしいことを書いた「ヘルプカード」など
- 障害者手帳やお薬手帳



4月に向け、それぞれ新しい生活が始まる前に、自分のきこえや耳の状態、補聴器や人工内耳、そして障害者福祉などについても考える機会をつくりましょう。

『次のチェック項目、あなたは大丈夫？』

- 学校や外出先で補聴器や人工内耳を外した時のための容器(ケース)をいつも持ち歩くことができましたか？
- 夜寝るときは、必ず補聴器や人工内耳を乾燥ケースに入れることができましたか？
- 補聴器や人工内耳の電池や乾燥剤をこまめにチェックして、必要に応じて準備・交換ができましたか？
- 汗カバーを付けたり、チューブ内に結露防止の糸を入れたりして、補聴器や人工内耳の故障を防ぐことができましたか？
- 耳に異常を感じたり、きこえがいつもと違ったりしたときは、すぐに家の人や先生に相談することができましたか？
- 補聴器や人工内耳を毎日付けて、よりよいきこえや生活につなげることができましたか？

◎ 補聴器や人工内耳が、おかしいと思ったら・・・

補聴器や人工内耳が壊れてしまったり、水にぬれしまったり、音が聞こえなくなったりしたら、すぐに学校または、補聴器のお店か病院（人工内耳の場合）へ連絡しましょう。